

平成 26 年度厚生労働科学研究委託費（医薬品等規制調和・評価研究事業）  
「インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動の情報収集に関する研究」

## 委託業務成果報告 分担 2

### 「2013/2014 シーズンにおけるインフルエンザ様疾患罹患時の異常行動（軽度）」

岡部 信彦	川崎市健康安全研究所・所長
宮崎 千明	福岡市立心身障がい福祉センター・センター長
桃井真里子	国際医療福祉大学・副学長
谷口 清州	独立行政法人国立病院機構三重病院・国際保健医療研究室長
大日 康史	国立感染症研究所感染症疫学センター・主任研究官
菅原 民枝	国立感染症研究所感染症疫学センター・主任研究官

#### 研究要旨

目的：インフルエンザ様疾患罹患時に見られる異常な行動についての実態把握の必要があり、2013/2014 シーズン調査のうち、軽度の異常な行動に関する調査（軽度調査）を行う。

方法：軽度調査はインフルエンザ様疾患と診断され、かつ、軽度の異常な行動を示した患者でインフルエンザ定点医療機関において調査を依頼した。報告方法はインターネット又は FAX とした。

結果：2013/2014 シーズンの軽度は 509 件であった。「おびえ・恐慌状態」、「激しいうわごと・寝言」が多かった。

#### A. 研究目的

インフルエンザ様疾患罹患時に見られる異常な行動の背景に関する実態把握の内、軽度調査を昨年度に引き続いて調査を行った。

#### B. 材料と方法

##### 調査概要

調査依頼対象はインフルエンザ定点医療機関とした。報告対象は、インフルエンザ様疾患と診断され、かつ、軽度の異常な行動を示した患者（何かにおびえて手をばたばたさせるなど、その行動自体が生命に影響を及ぼすことは考えられないものの、普段は見られない行動）とした。報告方法はインターネット又は FAX とした。

インフルエンザ様疾患とは、臨床的特徴上

気道炎症状に加えて、突然の高熱、全身倦怠感、頭痛、筋肉痛を伴うこと)を有しており、症状や所見からインフルエンザと疑われる者のうち、下記のいずれかに該当する者である。

次のすべての症状を満たす者 突然の発症、高熱(38 以上) 上気道炎症状、全身倦怠感等の全身症状

迅速診断キットで陽性であった者

##### 分析

本報告では軽度の分析を行う。分析の枠組みは重度の異常行動と同様とした。

##### 倫理的配慮

国立感染症研究所医学研究倫理審査を受け、承認されている（受付番号 462「インフルエ

ンザ様疾患罹患時の異常行動の情報収集に関する研究」)。

### C. 研究結果

2013/2014 シーズンの軽度は 509 件であった。

図 1 は異常行動（軽度）の発熱週と発生动向調査を示した。

図 2 は患者の年齢を示した。6 歳が最も多く、平均値 6.94 歳、中央値 7 歳であった。

図 3 は患者の性別を示した。男性が 65%であった。

表 1 は 2013/2014 シーズンの全ての軽度異常行動の発現における性差についての検討について示した。

図 4 は最高体温を示した。39.0 度が最も多く、次いで 40.0 度で、平均値は 39.3 であった。

図 5 はインフルエンザ迅速診断 キットの実施の有無を示した。97%で実施されていた。

図 6 は迅速診断キットによる検査結果で、陽性 A 型が多く、次いで陽性 B 型であった。

図 7 は異常行動と睡眠の関係で、異常行動は眠りから覚めて直ちに起こったが 60%であった。

図 8 は服用した薬の組み合わせを示した。調査対象とした薬剤（オセルタミビル、アマタジン、ザナミビル、アセトアミノフェン、ペラミビル(2009/2010 シーズン以降)、ラニナミビル(2010/2011 シーズン以降)、テオフィリン(2012/2013 シーズン以降のみ)の 7 剤)のうち、1 剤でも服用の有無が不明な症例については「いずれかが不明」に分類される。全ての服用なしとオセルタミビルのみが最も多く 13%、次いでオセルタミビルとアセトアミノフェンが 7%であった。ラニナミビルのみが 4%、ザナミビルのみが 5%であった。

図 9 は異常行動の分類を示した。その他を除くと「おびえ・恐怖状態」が多かった。次

いで、「激しいうわごと・寝言」であった。

### D. 考察

軽度の異常行動は、平均 7 歳、男性に多い発現であった。「おびえ・恐怖状態」「激しいうわごと・寝言」が多かった。これまでと比較すると件数は重度同様に少なかった。(2007/2008 シーズンの軽度は 520 件、2008/2009 シーズンの軽度は 938 件、2009/2010 シーズンの軽度は 1003 件、2010/2011 シーズンの軽度は 321 件、2011/2012 シーズンの軽度は 428 件、2012/2013 シーズンの軽度は 231 件)。性別はこれまでと同様、男性が多かった(2007/2008 シーズンは 59%、2008/2009 シーズンは 65%、2009/2010 シーズンは 67%、2010/2011 シーズンは 67%、2011/2012 シーズンは 67%、2012/2013 シーズンは 61%)。

### E. 結論

2013/2014 シーズンの軽度の異常行動は 509 件であり、これまでと比較すると重度の異常行動同様に少なかった。また、これまで同様に、服用した薬の種類、使用の有無と異常行動については、特定の関係に限られるものではないと考えられたことから、引き続き、調査、検討が必要であると考えられた。

### F. 健康危険情報

特になし

### G. 論文発表

特になし

### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

特になし